



安川電機 (6506)

2004年3月期 決算説明会資料(要約) (2004年5月14日)

説明者 取締役社長 利島 康司

- ・2003年度(2004年3月期)決算概要・・・ 1~6頁
- ・2004年度の位置付け、取り組み・・・ 7~9頁
- ・2004年度業績見通し・・・・・・・・・・・・ 10~11頁
- ・2005年度目標達成に向けて・・・・・・・・ 12~13頁
- ・注記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14頁

2003年度（2004年3月期）決算概要

- **連結売上高 2,630億円（前期比 116.3%）**
成長市場である半導体・液晶関連市場や自動車関連市場、中国をはじめとしたアジア市場への注力により、モーションコントロール、ロボティクスオートメーションの両部門が拡大し、全体で前期比16%増となった。
- **営業利益 124.1億円（前期比 196.7%）**
経常利益 120.1億円（前期比 299.6%）（過去最高）
売上高の増加により、営業利益・経常利益とも大きく増加。
- **当期純利益 58.2億円（前期：▲25.2億円）（過去最高）**
経常利益の改善により、前期比+83億円となった。
- **フリーキャッシュ・フロー+196億円（前期比 302.2%）**
営業活動によるキャッシュ・フロー +185億円、
投資活動によるキャッシュ・フロー +11億円となり
前期比で大幅に拡大。
有利子負債削減へ充当した。

コストモデルの実現(連結:概算)

新C-50プログラムによる原価低減

- ・コストダウン製品開発、既存製品リエンジニアリング
- ・EMS、海外生産の拡大
- ・02年度施策である生産専門会社設立のフル効果

人員適正化

- ・ERP導入効果、拠点・機能統合、業務改革等による要員削減

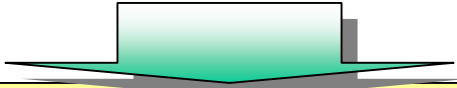
副資材コストダウン

- ・全社集中購買の実施、e-調達対象の拡大

バリューチェーン改革

- ・ビジネスプロセスごとの高付加価値化、コストダウン、生産性向上
- ・管理コスト・機能コストの重複排除

売上増による利益増



経常利益改善額 +80億円

B/S構造改革(連結)

B/S構造改革

02年度実績

D/Eレシオ
3.2倍

有利子負債削減
自己資本充実

03年度実績

D/Eレシオ
2.2倍

●フリーキャッシュ・フローの確保

- ・税引前当期利益
- ・土地等資産売却
- ・退職給付差異償却 等

目標を達成

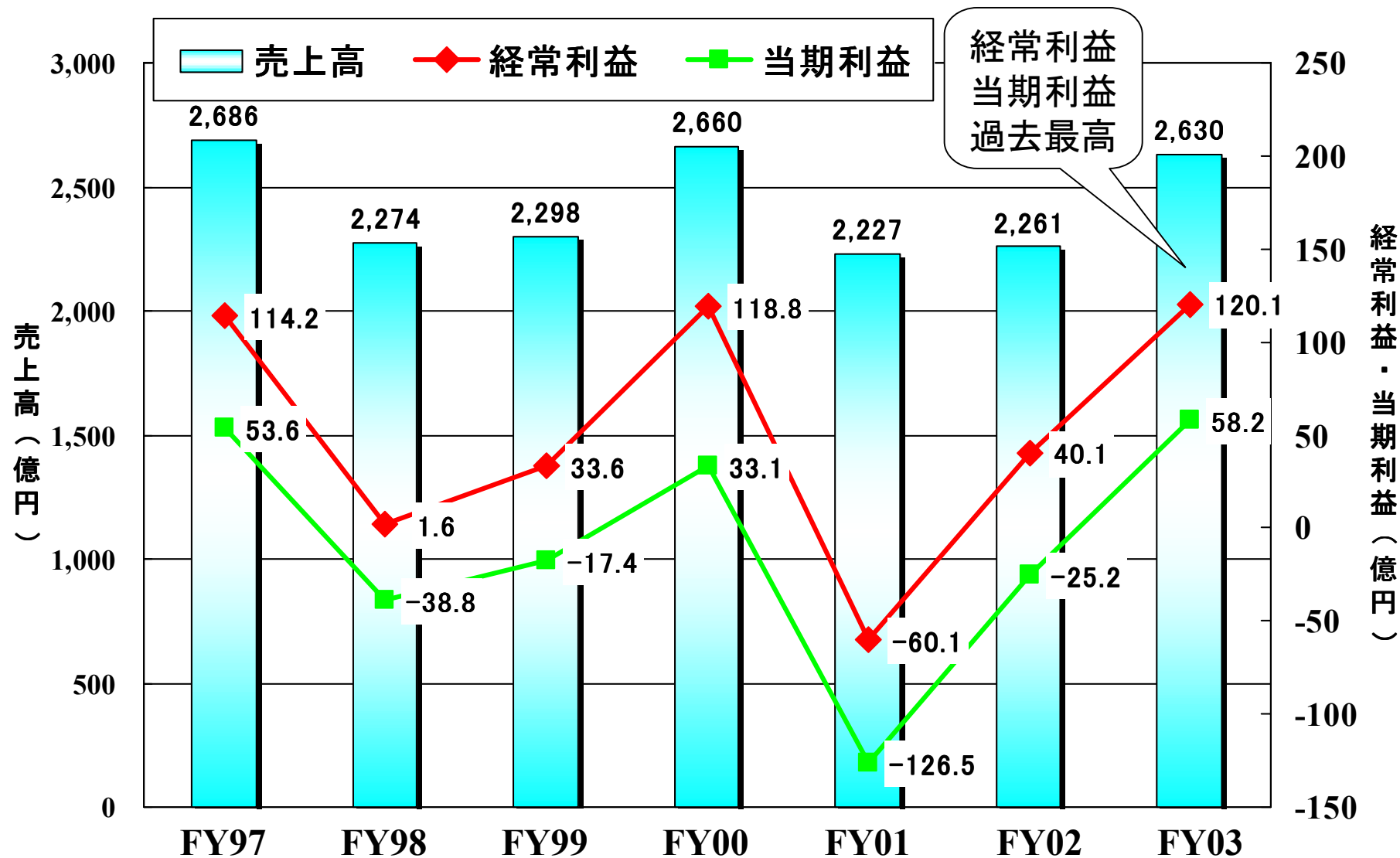
売上増でも棚卸資産を増やさない体制はできた。

連結棚卸資産の推移

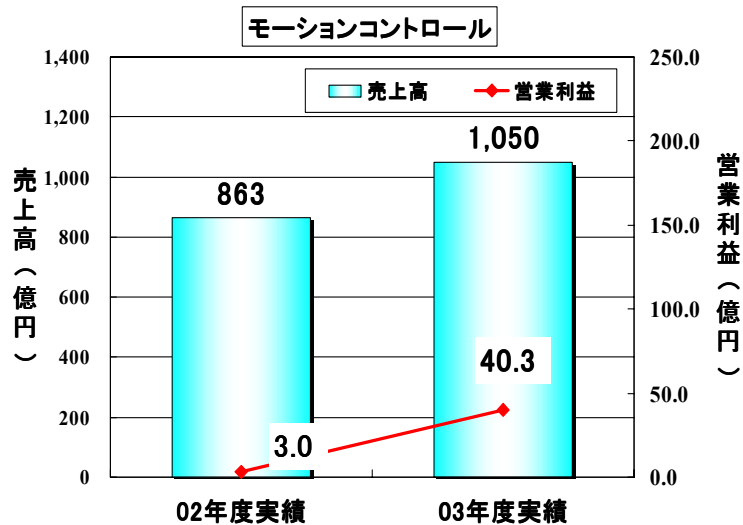
	00年度	01年度	02年度	03年度
棚卸資産(億円)	601	543	542	543
回転期間	2.7M	2.9M	2.9M	2.5M
売上高(億円)	2,660	2,227	2,261	2,630

回転期間を
2.0M以下へ

連結売上高、経常利益、当期利益の推移

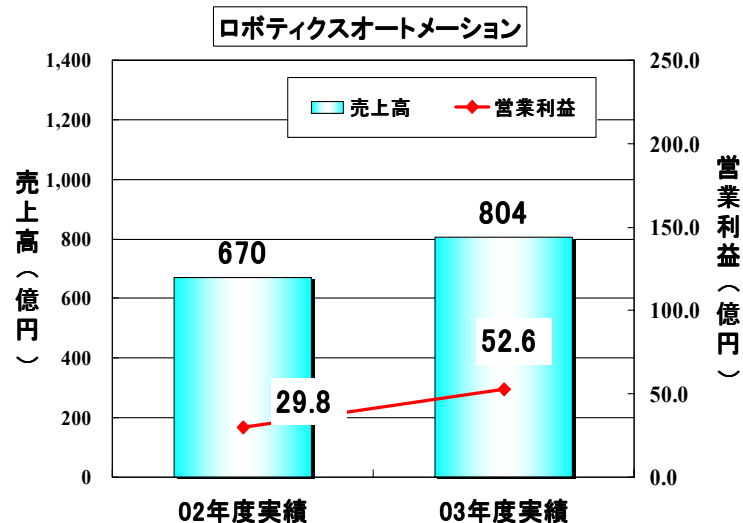


2003年度 部門別連結業績



- **モーションコントロール部門**
 売上高 1,050 億円 (前期比+188 億円、+21.7%)
 営業利益 40.3 億円 (前期比+37.3 億円)

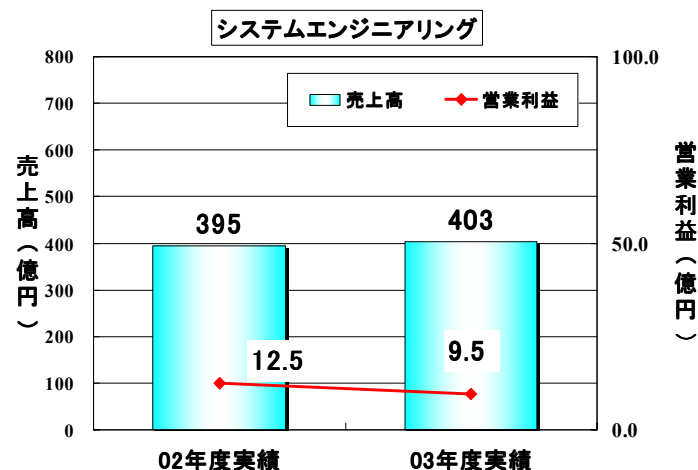
半導体・液晶・電子部品関連市場向けの回復や、中国・アジアを中心とした海外向けの拡大により、売上高は、05年度目標の1100億円に近い水準に達し、利益も大幅に伸びた。



- **ロボティクスオートメーション部門**
 売上高 804 億円 (前期比+134 億円、+20.0%)
 営業利益 52.6 億円 (前期比+22.8 億円)

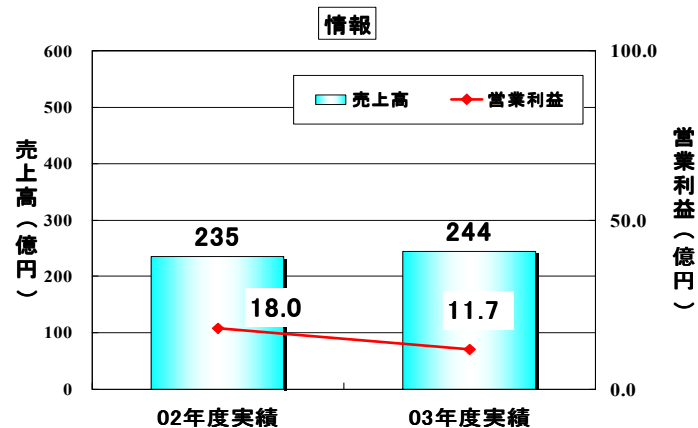
主力の自動車関連向けのロボットが堅調に推移したことに加え、液晶ガラス搬送用のクリーンロボットが韓国・台湾向けを中心に伸長したことにより、売上・利益とも大きく伸びた。03年度INR世界シェア(当社推定)は20%とWin21プラスの05年度目標を前倒しで達成。

2003年度 部門別連結業績



- **システムエンジニアリング部門**
売上高 403億円(前期比+9億円、+2.3%)
営業利益 9.5億円(前期比▲3億円)

鉄鋼関連向けについては更新需要取り込みを進めた結果拡大したものの、下水道向けシステムが公共投資抑制の影響を受け減少し、全体では前期並みの売上にとどまった。市場競争激化により減益となった。



- **情報部門**
売上高 244億円(前期比+9億円、+3.8%)
営業利益 11.7億円(前期比▲6.3億円)

受注案件の遅れや、特定カスタマの減少があったものの、売上はほぼ横ばいで推移した。厳しい市場競争や開発コストの増加により利益は低下した。

Win21プラスでの04年度の位置付け

04年度の市場環境

半導体関連市場 ⇒ 本格回復

液晶関連市場 ⇒ 高成長

自動車関連市場 ⇒ 堅調持続

中国・アジア市場 ⇒ 高成長

04年度新規施策

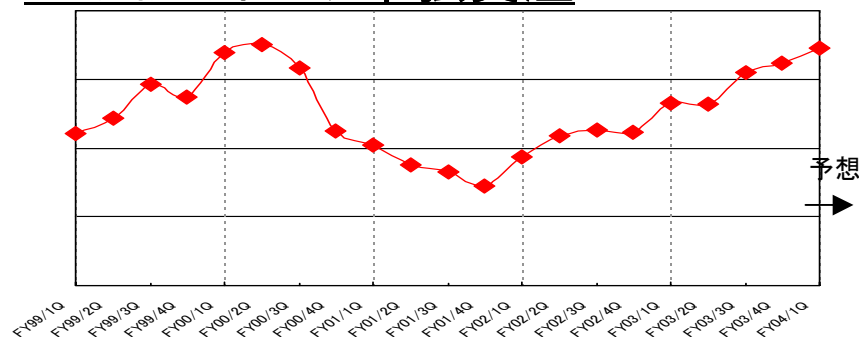
- 市場戦略とイノベーションによる事業拡大及び高付加価値化
 - ・ 戦略新製品の早期戦力化
 - ・ 利益率の高い市場・カスタマへの拡販(市場・製品ミックスの改善)
 - ・ 価格維持・値上げ努力

03年度施策の継続強化

- コストモデルの実現
 - ・ 主要製品の重点的コストダウン
 - ・ 徹底的に安い調達(調達革命)
- 有利子負債削減のための資産圧縮

モーションコントロール、ロボティクスオートメーションの受注動向

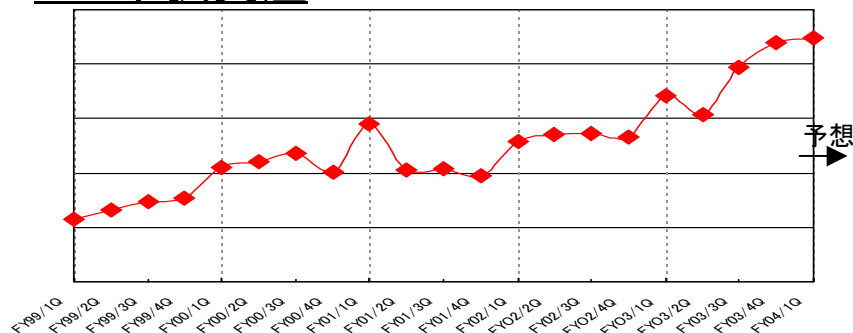
モーションコントロール単独受注



03年度期初から受注が立ち上がり、拡大基調。
⇒04年度も高水準が続く

- ・半導体・液晶製造装置
- ・電子部品実装機
- ・工作機械・射出成型機・金属加工機
- ・エレベータ・空調・繊維機械

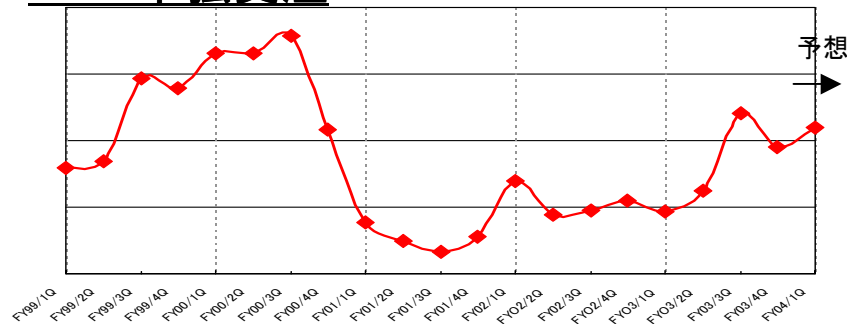
INR単独受注



自動車関連は堅調を維持し、液晶関連は好調に推移。
⇒04年度も自動車関連は堅調、液晶関連は引き続き好調

- ・アーク溶接
- ・スポット溶接
- ・塗装ロボット
- ・ハンドリングロボット
- ・液晶ガラス搬送ロボット

SER単独受注



03年度下期から急激に回復してきている。
⇒04年度に本格回復

- ・半導体ウエハ搬送ロボット

04年度コストモデルの実現(連結:概算)

(03年度比、年間)

新C-50プログラムによる原価低減

- ・コストダウン新製品投入、既存製品リエンジニアリング
- ・EMS、海外生産の拡大、生産性向上

人員適正化

- ・ERP導入効果、拠点・機能統合、業務改革等による要員削減

副資材コストダウン

- ・全社集中購買の実施、e-調達対象の拡大

バリューチェーン改革

- ・ビジネスプロセスごとの高付加価値化、コストダウン、生産性向上
- ・管理コスト・機能コストの重複排除

売上増による利益増

- ・営業戦略と開発戦略の連携強化による新製品の拡販
- ・成長市場での拡販

経常利益改善額 +60億円 ⇒ 経常利益180億円へ

2004年度連結業績見通し

■ 売上高 2,950億円(前期比112%、+320億円)

半導体関連市場向け、および中国を中心としたアジア向けの売上増によりモーションコントロール、ロボティクスオートメーションの両部門で中計05年度目標水準を前倒しで達成し、売上高は2003年度比12%増を見込む。

■ 営業利益 181億円(前期比146%、+57億円)

■ 経常利益 180億円(前期比150%、+60億円)

持続的コスト構造改革と付加価値向上により収益性の改善を図るとともに、受注・売上増によるコストアップを最小限にとどめる。

■ 当期純利益 80億円(前期比137%、+22億円)

退職給付会計基準変更時差異償却等の特別損失を想定。

⇒ 特別損失を特別利益で相殺できるように努める。

04年度のリスク要因

市場環境の急激な変動

注力する液晶・半導体関連市場が、当社想定ほど拡大しない可能性がある。(特に04年度下期の受注動向)

原材料・部品価格のさらなる上昇

原材料・部品価格を製品価格に転嫁できない場合、コストダウン目標額を達成できない可能性がある。

為替円高による影響

想定以上の円高の進展により、輸出の減速や、利益が減少する可能性がある。

(04年度為替想定 1ドル=110円、1ユーロ=130円)

05年度目標達成に向けて：コストモデルの実現（連結：概算）（04年度比、年間）

売上増による利益増

- ・持続的成長：中国市場・半導体・液晶・自動車関連市場への注力
- ・次世代製品のタイムリーな市場投入・新規事業の育成

新C-50プログラムによる原価低減

- ・コストダウン新製品投入、既存製品リエンジニアリング
- ・EMS、海外生産の拡大、生産性向上

市場戦略による高付加価値化

- ・より利益率の高い市場・製品の拡販
- ・価格維持、値上げ努力

人員適正化

- ・ERP導入効果、拠点・機能統合、業務改革等による要員削減

副資材コストダウン

- ・全社集中購買の実施、e-調達対象の拡大

バリューチェーン改革

- ・ビジネスプロセスごとの高付加価値化、コストダウン、生産性向上
- ・管理コスト・機能コストの重複排除

経常利益改善額 +120億円 ⇒ 経常利益300億円へ

05年度目標達成に向けて：B/S構造改革（連結）

B/S構造改革

転換社債の転換不可の場合でもD/Eレシオ1.0倍を達成するよう方策を強化する。

03年度実績

D/Eレシオ
2.2倍

当初目標を達成

有利子負債削減
自己資本充実

05年度目標

D/Eレシオ
1.0倍

- フリーキャッシュ・フローの確保
 - ・当期利益の確保
 - ・退職給付差異償却
 - ・運転資金の増加等

※設備投資は減価償却費内にとどめる

※売上が増加しても、棚卸資産は増やさず、回転期間の短縮により対応する。

注意事項

本資料に記載されている業績見通しは将来の予測であり、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等に影響を与える重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。

なお、業績等に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。